

日 時 2016. 12. 8 (木) 小雪～ガス～快晴
 メンバー 後藤、勝又陽、小島
 山 域 北八ッ・西天狗岳 (2646m) 西尾根 (当初、赤岳を悪天候で変更)
 標高差 唐沢鉱泉約1880m～西天狗岳2646m=766m
 コース 裾野・呼子発 4:32—裾野市役所 5:13—一宮御坂 IC6:33—諏訪南 IC7:18—
 唐沢鉱泉 7:56～8:16—尾根分岐 9:18—展望台 10:22—西天狗岳 11:42～53 —
 展望台 13:03—尾根分岐 13:41—唐沢鉱泉 14:25～37—諏訪南 IC15:16—一宮御坂
 IC16:02—裾野市役所 17:45—裾野・呼子 18:03
 摘要 クルマ移動=片道156km 登り=3:26 降り=2:32

最近GPSの有り難さが身に染みる。現在位置と周りの地形が一目で判ることが最大の進歩だが、付随効果として、各地点の通過時刻が克明に記録される。従来から山行記録の為、各地点で時刻を手帳に記録していたが、これがかかなり厄介な仕事で間違いも多い。これを機械が自動で記録してくれる。また歩行速度や道迷い、休憩などがログから推測できる。優れものだ。

最も日の短い時期、真っ暗な中、市役所駐車場で合流。御坂峠を越えたあたりから空が白み、遠くの山々が姿を現した。秩父の山には雲はなく快晴。ただし八ッ方面は多少暗雲。中央高速に乗っても赤岳周辺は2000m程度から上に雲が広がっている。眺望が期待出来ず、且悪天候も予想される。赤岳より容易で第2案の北八ッ西天狗岳西尾根に変更。

諏訪南ICで高速を降り唐沢鉱泉に向う。美濃戸口と違って判りにくい一般道。ゴルフ場の先で鉱泉の看板を見つけ凍結した急坂の林道を登る。八時頃唐沢鉱泉着。先客が一組、積雪は1cmほどだが凍結して足元が覚束ない。



唐沢鉱泉発

西向きの柵林を登る。風は無く寒気で汗も抑えられるが、登山道は薄い雪で凍結しビムラムソールがグリップしない。持参のアイゼンは12本爪で重く、足さばきも難しい。4本爪を持ってくるべきだった。慎重に足を置くが疲れる。西尾根に乗った先でアイゼン装着。この日は下山するまでアイゼンのお世話になる。アイゼンワークのいい練習となった。



尾根に乗った



第一展望台手前

高度を稼ぐに連れて積雪も増える。すると木の根や岩、石が雪に埋もれて登山道はふかふかのクッションとなる。アイゼンが適度に利いて快適な雪道散歩。鉱泉から2時間ほどで展望台。遠く正面に天狗、右に阿弥陀が顔を出す。白い雪とまだらに黒い岩、ハイマツ。木々が途切れると風も有り、行く手に不安を感じる。

木々の枝は寒気と風雪で凍り付き霧氷を作り出す。その霧氷が雪面に落ちて、まるで剃刀が散乱しているよう。それにしても高山の青黒い空に霧氷の冷徹な白が映える。



霧氷がトナカイの角みたい



先行者に撮って貰った



下界は晴れて来た

先行の3人連れを第一展望台で追い越し、森林限界を越えると突然、眼前に氷雪をまとった巨大な岩壁。これまでとの落差に愕然とするが、仕方が無い。幸い風はほどほど、視界も良好。リーダーの跡をたどる。

岩場に雪が溜まりルート選択が難しい。足を置く場所を誤ると、ずぼっと雪に嵌まる。と言って、岩は岩でアイゼンが引っ掛かる。雪岩と格闘すること三十分。何とか西天狗到着。微風はあるが見事に晴れ渡り、360の大パノラマ。しかし寒い。標高2600mなので多分零下10℃くらいか。体感温度は零下15℃くらい。



先行するL（小島）



頂上直下から俯瞰



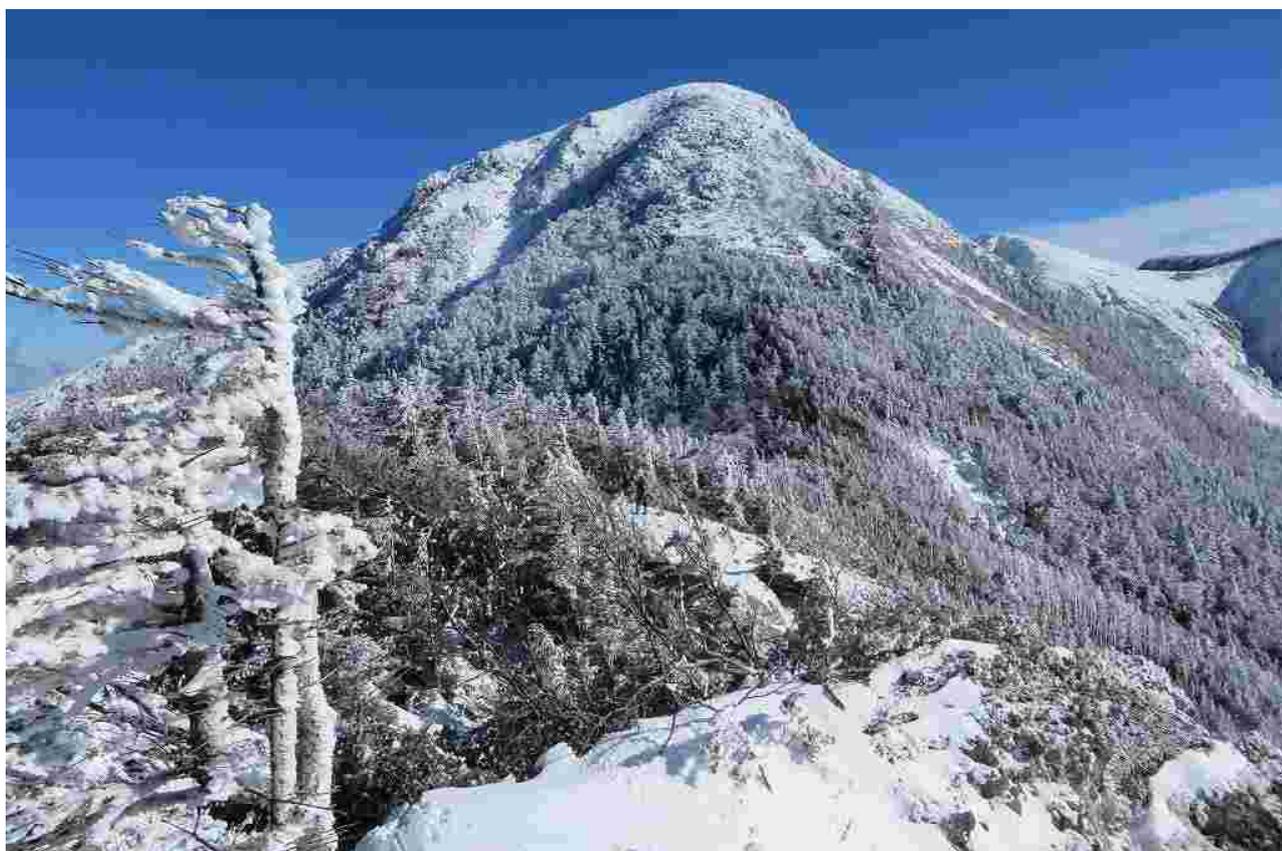
天狗岳頂上



大展望



下山



中央に勝又・小島が見える

東天狗から黒百合ヒュッテに降る計画だったが、リーダーの判断で往路を下る。岩場の下山が心配だったが、思いの外、無事に降りることが出来た。此处を越えると風の無い樹林帯歩きなので、一気に気抜けする。

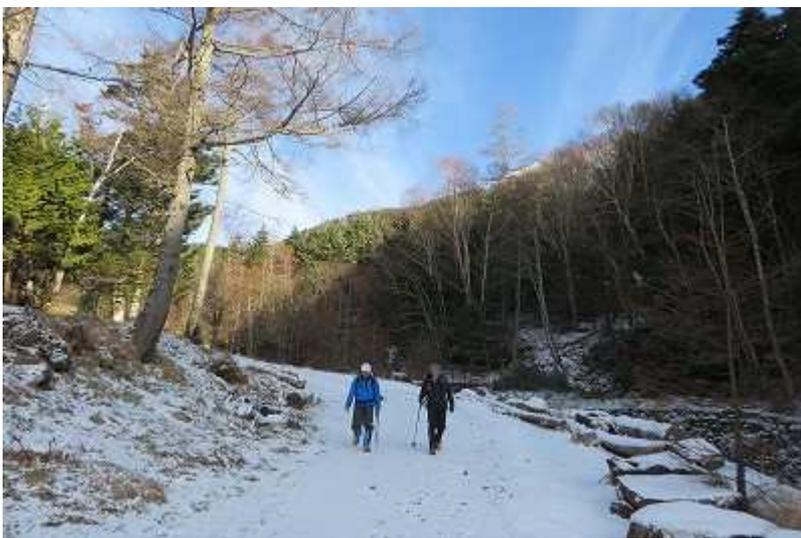
その慢心と疲れからか、降ると共に、アイゼンが石や根に引っ掛かり転びかける。そろそろ外そうかとも思うが、その手間とアイゼンの収納が面倒で最後まで歩き通す。

記録を見ると、雪山は8年振りだった。今回は岩場でのアイゼンワークを学ぶことが出来た。午後には赤岳も顔を出し、ハツの全景を堪能した。

帰宅してGPSを確認すると、電池切れでログが途切れていた。御愛嬌。



何を見てる??!!



お疲れ様～



唐沢鉱泉着

その他の記述（後藤）

1. この日の西尾根登山者は、我々を入れて6名。下山者1名だった。
2. 第一展望台で先行者3名を抜かした。2名はチェーンアイゼンだった。
3. 北八ッ・南八ッの境は、諸説があるが、ここでは「夏沢峠」とした。

4. 下山時間は11:45だった。本来、周遊ルートが理想で、黒百合ヒュッテから唐沢鉱泉だが、黒百合ヒュッテ下のゴロタ岩で時間が掛かるとみて、今回は往復登山とした。帰着が14:15を考えると、この判断は正しかった。
5. 第一案は赤岳だったが、11:45まで赤岳は完全に見えなかったので、第二案登山は、正解だった。

以上